

令和7年度 岩国市地域包括支援センター運営協議会 会議要旨

日時：令和8年2月12日（木）19：00～20：20

場所：岩国市役所本庁 4階 41・42会議室

出席者：【委員】13名（欠席2名） 【包括】9名 【事務局】8名

議題1 各地域包括支援センターの令和7年度運営状況並びに令和8年度運営方針及び活動計画

1 事務局説明（令和7年12月末現在の活動実績より抜粋）

重点項目	内 容
<p>高齢者の介護予防・健康づくりの推進及び自立支援の推進</p>	<p><u>1. 高齢者の介護予防・健康づくりの推進</u> <u>2. 自立支援の推進</u></p> <p>○フレイルや認知症予防についての意識が高まり、実践できるように講話やチラシ配布を行った。また、関係団体などによるちらし配布を行い高齢者に情報が届くように取り組んだ。（ちらしを計8,801枚配布し、50回講話等を行った。）</p> <p>○地域情報を整理した資源マップ等を配布、ホームページに掲載し、さらに高齢者の社会参加やいきがづくりとなるように動機付けやきっかけづくりを行った。（<u>地域活動への参加支援やつなぎの支援を237回行った</u>）</p> <p>○地域包括支援センター職員が「高齢者の地域での自立した日常生活の継続」の視点に立ち、介護予防ケアマネジメントを行った。また、リハビリ専門職に通いの場等の普及啓発を行った。（<u>個別地域ケア会議（自立支援）で20事例検討した。</u>）</p> <p>【今後の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「介護予防・日常生活支援総合事業」の理解を深め、「高齢者の社会参加」や「サービス・活動事業の適切な利用」を促進する。 ・「事業対象者」の早期発見・早期対応などにより、高齢者の主体的な活動を支援することを継続する。
<p>高齢者が暮らし続けることができる地域づくりの推進</p>	<p><u>1. 地域包括支援センターの相談体制の充実</u> <u>2. 地域資源の把握と地域資源の拡充</u> <u>3. 地域ケア会議の推進</u></p> <p>○様々な場面で「地域包括支援センター」の周知を継続している。（<u>高齢者の総合相談の窓口として19,822件（予防給付を除く）の相談対応を行った。</u>）</p> <p>○フレイル状態や認知症になっても地域で暮らせるよう、地域活動・資源の拡充を図っている。（<u>介護予防教室を5箇所で開催し、通いの場の立ち上げ支援、高齢者生きがいボランティアグループ立ち上げや認知症カフェの開催支援など。</u>）</p> <p>○地域ケア会議で地域のニーズを共有し、介護予防教室の開催等地域づくりについて協議した。（<u>地域ケア会議16地区25回、個別地域ケア会議10回10件</u>）</p> <p>【今後の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の身近な場所に、出かける先（居場所）があるよう、地域団体や事業所・民間企業などとの係わりを広げ、活動の選択肢を増やすことにより、社会や地域への参加の「きっかけづくり」や「参加の場の拡充」を図る。 ・地域の課題解決に向けた地域住民などの取り組みを支援するため、地域

	ケア会議の開催を継続する。
多職種・多機関との連携・協働	<p><u>1. 地域包括ケアシステムの推進</u> <u>2. 多職種協働による連携体制の促進</u></p> <p>○地域包括ケア推進協議会や専門部会等の協議結果を地域包括支援センター間で周知し、専門機関や関係機関などとの連携を広げている。</p> <p>○認知症高齢者の相談対応や医療・介護サービスへのつなぎを関係機関と連携して支援している。(認知症の相談に3,195件対応した。)</p> <p>○高齢者の権利を擁護するため、成年後見制度利用への支援や高齢者虐待への対応を行っている。(後見等501件、虐待952件の相談対応を行った。)</p> <p>○認知症理解の促進として職員向け研修会(91名参加)、認知症の人の視点に立ち、活動することを目的にアクションミーティング(51名参加)を開催した。</p> <p>【今後の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者やその家族等が複数の複雑な問題を抱えている事例や制度のはざままで必要な支援が受けられない事例などについて、多機関・多職種でのケース会議を開催し、連携強化を図る。 ・関係機関等の取組みと連携・連動し地域づくりを支援する。 ・認知症の人や家族が安心して暮らせるように行政職員や関係団体に認知症の理解を促進していく。

2 各地域包括支援センター報告

直営	<p><u>高齢者の介護予防・健康づくりの推進及び自立支援の推進</u></p> <p>1班は、地域で自立した生活が送れるように、対象者の体や生活状況に応じて、通所型タイプ3の利用につなぎ、昨年度より利用者が増えている。</p> <p>2班は、対象者が通いの場をスムーズに利用できるように職員が見学や体験に同行し、継続利用につながっている。3班は、フレイル予防講座や運動実技指導、体力測定を実施し、日々の生活の中に体操や運動を取り入れることの必要性を実感してもらい、転倒予防や生活機能低下の予防をしている。4班周東は、身体機能の向上や生活習慣の改善により、介護保険サービス利用修了者が引き続き介護予防に取り組める場として、通いの場を紹介し利用につながっている。4班玖珂は、社協のワンコイン事業や高齢者ボランティアグループなど、介護保険外のサービスへのつなぎを行い、地域資源を活用した自立支援を促進している。</p> <p><u>高齢者が暮らし続けることができる地域づくりの推進</u></p> <p>1班は、認知症に関する地域づくりの推進として、チームオレンジへの活動支援の中で、マップづくりを通して、地区の関係機関に認知症の関心を高められた。対象者と認知症カフェへ同行することで、カフェ参加につながり、地域の見守り支援につながった。2班は昨年度の地域ケア会議をきっかけに、参加の少ない通いの場の参加者が増え、2か所で通いの場が立ち上がった。また今年度2か所の介護予防教室の開催を予定している。3班は初めて小学校区単位で、地域ケア会議を開催し、総合事業の理解を深め、より顔の見える関係性から連携を図るきっかけとなった。4班周東は、地域ケア会議において介護予防教室に関心を持った地域の4か所に働きかけ、通いの場が立ち上がり、介護予防に取り組む場が増えた。4班玖珂はチームオレンジの活動を支援し、毎回20名程度の参加があり継続した活動につながっている。</p> <p><u>多職種・多機関との連携・協働</u></p>
----	---

	<p>1班は、成年後見制度の申し立ての相談のうち、約9割はケースの状況に応じた申し立てにつながった。他問題ケースは、多機関と連携して課題解決に取り組んだ。2班は、虐待を含む困難ケースに対し、医師や相談員等の関係機関と課題を共有しながら会議を行い顔の見える関係が取れることで支援がスムーズに行えた。3班は医療機関から認知症などの相談時に医療受診や本人・家族への相談に迅速に対応したことで、関係機関との連携が図れ、適切な支援につながった。4班周東は、認知症高齢者の同行支援により、医療機関との支援の共有ができ、在宅支援の継続や、必要時入院につながることができた。4班玖珂は、医療機関との連携ができており、必要時医療機関からの連絡に迅速に対応できた。</p>
<p>岩国第一</p>	<p><u>高齢者の介護予防・健康づくりの推進及び自立支援の推進</u> 健康づくりに関するチラシの配布、講話等を実施した。フレイルや認知症予防の認識が高まっており、認知症サポーター養成講座の開催希望や認知症カフェの開設の希望の声も複数ある。先月は旭町で開設、愛宕も開設に向け、立ち上げの準備に際し話し合いにも参加している。愛宕地区の認知症サポーター養成講座は、100名を超える参加者あり。認知症のみならず、将来的な介護サービス利用の減少の危機感を持って、講座やケア会議への参加の意識の高まりがある印象を受けた。今後もセルフマネジメントや介護予防に関する講座や啓蒙活動等を継続して行っていきたい。</p> <p><u>高齢者が暮らし続けることができる地域づくりの推進</u> 地区の文化祭に参加し、包括支援センターの紹介や介護予防や認知症予防に関する啓蒙活動を行った。今後もイベントや地域住民の集まる場に参加し、地域包括支援センターの周知を図っていきたい。</p> <p>通いの場は、2か所立ち上げ支援した、サロンの登録となったが、はつらつ体操も継続して行っていくことになった。手続きの問題、補助金支給要件の開催頻度も、通いの場につながらない要因と捉えている。引き続き既存の通いの場の支援、新規立ち上げ支援を行っていきたい。</p> <p><u>多職種・多機関との連携・協働</u> 医療機関や関連事業所と、入退院に際して調整や連絡を実施している。独居生活者、認知症罹患には、受診同行することも増えている。虐待に関しては、認定件数自体は少ないが、認定前の件数は少なくない状況で、関連機関と連携し、相談や対応をしている。成年後見や権利擁護事業については、家族や親族との関係が疎遠、経済的な問題で有償制度の利用が困難な場合がある、今後はそのようなケースの増加が懸念され、連携機関とのネットワークの構築が必要と考えている。支援機関や支援回数が多くなることも課題と捉えている。携帯電話でインターネットを利用する高齢者が増えており、消費者被害の相談も増え、金融機関との連携をとっているケースもある。引き続きチラシやパンフレット等の配布を行い、また専門的な視点で支援ができるよう研修等で研鑽し、早期発見や早期対応ができるように、関係機関と情報共有し円滑な対応ができるようにしていきたい。</p>
<p>岩国第三</p>	<p><u>高齢者の介護予防・健康づくりの推進及び自立支援の推進</u> サロンや通いの場、地区社協行事にてフレイル予防の講話や体操、体力測定等を行った。地域から寄せられる様々な相談に対し、意向に沿いながらも活動量を増やせるよう供用会館での習い事や、通いの場への参加調整を実施した。一緒にその場に同行し、状態把握を行うなど、目標を明確にして取り組んでいただいた。支援が必要な方を早期に発見・対応することで、重度化を防止し在宅生活が安定して続けられるよう支援した。今後は、通いの場がない地域で介護予防教室を実施し、通いの場創設を目指す等で、介護予防の活動に取り組みたい。また相談対応時に地域資源の活用やつながりの支援などで、高齢者の状況改善や健康維持が図れるようアプローチを</p>

	<p>していく。</p> <p><u>高齢者が暮らし続けることができる地域づくりの推進</u></p> <p>個別の地域ケア会議や、困難事例に関してのケア会議等を随時開催し、関係機関と連携し対応した。灘地区の2か所で介護予防教室を開催し、新たに通いの場が2か所できた、毎週1回自治会館で、体操や脳トレなど楽しく介護予防に取り組まれている。認知症サポーター養成講座を開催し、ステップアップ講座を経て、通津地区でチームオレンジ通津ができた。通津地区で認知症カフェへのつなぎや、若年性認知症疑いの方を包括へ相談されるなど、連携支援が図れている。今後も認知症になっても、地域で暮らせる地域づくりを地域の方と一緒に考えていきたい。</p> <p><u>多職種・多機関との連携・協働</u></p> <p>高齢者の権利擁護促進のために消費生活相談センターとの連携支援や、日常生活自立支援事業、成年後見制度につなぐ支援などを多職種・多機関と連携して実施した。65歳未満の方の相談も民生委員等から数多く寄せられ、関係機関と連携して対応している。多様化複雑化する課題に対して、今後も職員の質向上を図りながら関係機関と連携して取り組んでいく。</p>
<p>岩国第五</p>	<p><u>高齢者の介護予防・健康づくりの推進及び自立支援の推進</u></p> <p>美和地域に新しく通いの場ができ、地域で介護予防や健康づくりができる資源ができ、フレイル予防につながった。美和地域で認知症カフェの開設をしたいとの声があがり、認知症サポーター養成講座を実施した。認知症に関する関心が高まっている。地域のタイプ3の利用を希望される方に対して利用を勧め参加が開始された、タイプ3への参加者も徐々に増えている。地域のタイプ3、通いの場やサロン等の活動が高齢者の介護予防に対する意識の向上となり、認定率低下の一因となっていると思う。</p> <p><u>高齢者が暮らし続けることができる地域づくりの推進</u></p> <p>地域の集まりの場やイベントに参加し地域包括支援センターの相談窓口として機能の周知を行った。総合相談や、困難な事例の相談が増加している、個別ケア会議をしてチームとして対応している。高齢化が進行している中、通いの場やサロンの存続が難しい現状があるが、社会資源が少ない地区なので、休止や廃止とならないように継続支援を行っている。</p> <p><u>多職種・多機関との連携・協働</u></p> <p>医療機関に入院していた方の、退院前カンファに包括も出席することで、退院後の見守り等の支援もスムーズにできている。</p> <p>玖北地域は、やましろ研究会や地域医療セミナー情報交換会など、医療・介護・福祉の関係機関の連携の動きが強化されている。</p> <p>個別の事例から地域の課題についても共に考えていきたい。</p>

3 委員からの意見等

委員 通いの場の対象者はどのような方になるのか、また設置は地域のボランティアが行うのか。

運営に市が補助金を出しているのか。

包括 対象者は自立の方や、要支援の方も通うことができます。

運営は地域の参加者にして頂きます。

運営に対し市の補助金をお出ししていますが、開催回数や内容に決まりが有り、補助金の申請が難しい場合もあります。自主的な活動という形でされている所

もあります。

委員 地域に共用会館が無い場合、学校の空教室を利用して通いの場を作れないかということで、最初は民生委員と福祉員、包括で立ち上げの支援を行った。現在は参加者にお渡ししてその中で運営している、民生委員も時々行ってみるような場を作った。

4 結果

委員により承認いただきました。

議題 2 地域包括支援センターの令和 7 年度事業評価

1 事務局説明

「地域包括支援センターの令和 7 年度事業評価」について、地域包括支援センター業務に関する評価結果について説明。

評価方法（1）包括の公正・中立性の評価基準（指導監査室説明）

「岩国市地域包括支援センターにおける公正・中立性評価基準について」の「2 評価方法」の（1）「岩国市地域包括支援センターの公正・中立性の評価基準」により評価を行った。

〔評価結果〕 別紙 1

（設置状況）

- ① 事務所の配置について、第一・第三包括は、同一建物には包括の事務所のみとなっている。第五包括は、併設の施設があるが、部屋が仕切られており、業務が分離されている。
- ② パソコンの管理状況について、全包括がパスワード等により、パソコンの管理を行っている。

以上のことから、「設置状況」について、「適」と評価した。

（職員の視点）

介護予防支援の提供開始の際には、利用者に対し、複数のサービス事業所の紹介を求めることができるということなどを説明しなければならないとされており、各包括では、その内容を重要事項説明書に盛り込み、利用者に説明している。

また、各包括では、サービス事業所の一覧を用意しており、サービス事業所を選択する際にはその一覧を示し、利用者や家族が複数の事業者の中から事業所を選択できるようにしている。

以上のことから、「職員の視点」について、「適」と評価した。

（広報活動）

- ① 第三・第五包括で独自のチラシを作成しているが、法人のPRを行うものとはなっていないかった。
- ② 電話対応等の際にも、全委託包括で法人名を名乗っていない。

以上のことから、「広報活動」について、「適」と評価した。

（介護予防ケアマネジメント）

- ① 全包括において、介護予防ケアプラン作成時、「特定の事業所に偏ってサービス集中していない」または「特定の事業所に集中しているが、正当な理由が認められる」として、「適」と評価した。
- ② 全包括において、指定介護予防支援業務の委託時、「特定の事業所に偏ってサービス集中していない」または「特定の事業所に集中しているが、正当な理由が認められる」として、「適」と評価した。

（居宅介護支援事業所の紹介）

全包括において、「特定の事業所に集中していない」または「特定の事業所に集中しているが、正当な理由が認められる」として、「適」と評価した。

評価方法（２）市町村及び地域包括支援センターの評価指標

（地域包括支援センター説明）

地域包括支援センターの事業を評価するため、国において作成された全国統一の評価指標に基づき、各地域包括支援センターが自己評価した結果をレーダーチャートで示している。

この評価指標は地域包括支援センターの業務実施状況を明らかにし、事業の質の向上に活かしていくことを目的に、８項目の業務評価項目に基づき評価を行っている。

項目別に見ると、各包括とも、「地域ケア会議」や「権利擁護」などの評価については、支援の体制整備にもつながる取組として、概ね取組が充実してきている。

包括全体としては、総合事業の周知や事業対象者への適切な介護予防ケアマネジメントの実施、終活、地域資源の活用などへの取組については、今後も力を入れていく必要がある。

「地域包括ケアシステムの構築・推進」や「包括的支援事業」の項目については、包括により地域の実情により対応が異なるため、若干のばらつきがある、それぞれの地域に合わせた働きかけを継続し、地域資源の喪失を含め、支援体制づくりに今後も努めていく。

2 委員からの意見

意見等なし

3 結果

岩国市地域包括支援センターにおける公正・中立性の評価については、岩国市の基準に基づき適切に実施されていると評価いただきました。

令和７年度事業評価は承認いただきました。

議題3 令和8年度地域包括支援センター業務委託並びに介護予防支援業務及び介護予防ケアマネジメント事業委託契約

1 事務局説明

○令和8年度地域包括支援センター業務委託について

議題2で岩国市地域包括支援センター運營業務についてのご審議の結果、全委託包括において「適正な運営がなされている」との評価をいただいたことから、令和7年度と同様に3法人と令和8年度の業務委託を継続していきたい。

○介護予防支援業務及び介護予防ケアマネジメント事業委託契約について

令和8年度の介護予防支援業務及び介護予防ケアマネジメント業務の委託業務は、28法人、31事業所と業務委託を行いたい。

○令和7年度途中での委託先の変更についての報告

2 委員からの意見等

委員 委託業務先について、柳井市や五日市などの事業所もあるが、こういうところは、どういうサービスの利用の仕方になるのか。

包括 住所を岩国市に置いたまま、他市に移動して生活している方、実際の生活が岩国で無い方もいる、そういう方は生活の場所で支援をしていただければということで委託契約をしている。

3 結果

令和8年度岩国市地域包括支援センター業務については、事務局提示の3つの法人へ委託することでご承認いただきました。また、介護予防支援業務及び介護予防ケアマネジメント業務委託契約については、事務局提示の法人へ委託することでご承認いただきました。

議題4 地域包括支援センターの委託

1 事務局説明

○包括的支援体制の審査・推進を目指すためにも引き続き地域包括支援センターの体制整備を図っていききたい、第10期の高齢者保健福祉計画策定に向け、現在、委託包括が設置されていない、第二圏域、第四圏域について、令和9年度からの委託を目指し令和8年度に公開型プロポーザルを実施したいと考えている。

高齢者が安心して生活できる体制づくり、地域包括ケア推進のためには包括の委託はなくてはならない、民間への委託が進み、介護予防や地域づくりをする拠点が増え、相談先や、支援者の方が増えることが、地域全体の活性化にも繋がり、将来的には介護保険制度の維持にもつながると考えている。

2 委員からの意見等

委員 公募するにあたって、公募に参加しそうな手応えはあるのか。

包括 一部前向きな意見をいただけたところがあった。公募をするにあたっては、他の法人にも説明を行いたいと考えている。

3 結果

委託については中々難しい状況が続いているかと思うが、これまで以上に尽力して頂きたい。

委託に関するプロポーザルを実施することについて承認いただきました。

議題5 その他

1 委員からの意見等

- 意見 介護保険サービスを利用している方のご家族から、市の職員から、岩国市はお金が無いのでデイサービス（介護保険サービス）に行くよりは、通いの場に行って元気になって、予防を卒業しようと言われた。というような話を聞いた。
- 回答 支援をする中で、長く介護保険サービスを使っていくということではなく、地域での活動の場を広げたり、どういう風にしたら介護保険だけに頼らず生活ができるかなどのお話の中で、地域活動に行ってみませんかを進めている。
- 基本的には介護保険は長く使うことは進めていないので、本人さんの状況に合わせて目標を決めて使っていきたいというお話の仕方をしていて、その中で半年たったら止めなきゃいけないと受けとめられる方はおられるのかもしれない。
- 意見 要介護になって介護保険のサービスを使い始めると、急に地域の人ではなくなる感じがある。要介護になるまでは地域の皆で頑張っていたのに、日中に介護サービスに行き始めると、今までの地域活動や、近所の間関係が希薄になっている気がする、介護になったら違う関係性の社会になってしまう。
- 介護保険を持っている方も含めて行う地域の催しなど、要介護の人も参加しやすいようなオーバーラップするような場があっても良いのではないかなと思う。
- 回答 地域づくりとか支援体制は、介護保険を使う、使わないに限らず、色々な選択肢を増やしていく事が大事と考えている、地域ケア会議や、関係者と一緒に話や意見交換をする場等があるので、その中でもアイデアを聞きながら、取り組みについて相談ができたかと考えている。
- 意見 地域ケア会議に地域の自治会長さんに参加していただければ良いのではないかなと思う。
- 意見 医療機関や介護事業所など、BCPの観点で、災害時も事業が回るように色々な準備をしましょうと言われていたが、包括では何かBCPのような物を策定されているのか。
- 回答 支援対象者のリストアップとか、どこに連絡するのか等を整理はしている、行動計画のようなどころについては対応を検討していきたいと思う。
- 意見 災害があった際にはスタッフが来られなくなる、近くで来られる人、来られない人を選別して、なんとか運営していかないといけない。

おそらく、地域の方が困って電話をするけど誰も出ないという状況に陥るのではないかというのが心配、その辺りを事業所で考えて頂けたらと思う。

- 意見 包括支援センターがサポートするのは、要介護の人なのだろうと思うが、要支援の人でも災害時に自力で避難できる人と、境のような人、認知症の症状があるような人もいる、その辺りも少し配慮してもらえるようなアイデアがあればと思う。

- 意見 通いの場に来られた方が、他の参加者に生活費を貸して欲しいと言っていた、という話を聞いた。この場でそのような話はしないで欲しいと代表の方がお断りをしたそうだが、包括に相談してもらって生活の指導をしてもらってはどうかという話が出た。

- 回答 地域の中で色々と困りごとなど思うことがあったら、包括に相談して欲しい。

- 回答 B C P、災害、地域とのつながり、こういった事を機論するのが地域包括ケアシステムの推進・進化につながっていくのかなと思いました。